

1. 令和4年度『学力向上推進プラン・プロジェクトⅡ』第3年次【充実期】

学力向上推進のための取組構想

知念中学校

県総括目標：幼児児童生徒一人一人に「生きる力」の基盤となる「新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力」を育む。(案)

市総括目標：4月に提案

総括目標：4月に提案

令和4年度推進目標

- R4年度全国学力学習状況調査において、平均正答率を全国平均まで向上させる。
- R4年度沖縄県学力到達度調査において、全教科が県平均正答率を上回る。

【成果指標】

- ①全国平均正答率において国語、数学とも-3p以内
- ②正答率30%未満の生徒の割合及び無解答率の減少
- ③児童生徒質問紙の学習意欲等に関する項目の数値の向上
- ④学校評価アンケートの「授業における基本事項」等に関する事項の数値向上

【R3年度学校実態】

全国学力状況調査（正答率%）		正答率30%未満の割合（%）		無解答率の割合（%）	
	国語	数学		国語	数学
本校	58.0	49.0	本校	15.0	20.5
沖縄県	60.0	52.0	沖縄県	11.9	18.9
全国	64.6	57.2	全国	7.1	13.0

沖縄県学力到達度調査（正答率%）

	2年国語	2年数学	2年英語	1年国語	2年数学	3年英語
本校						
島尻地区						
沖縄県						

※沖縄県学力到達度調査

※全国学力調査

- ・全教科で県平均正答率が下回っており、正答率30%未満の割合が県・全国共に上回っている。
- ・国語は無解答率の割合で県より1.4%下回った。
- ・数学は無回答立の割合で県・全国共に上回っている。

取組の重点

柱1 キャリア教育の視点を踏まえた「確かな学力」の向上の推進

- 地域教育資源や本物に触れる活動をとおして学ぶ意義や働く意義を実感させる。
- ・1次産業体験、職場体験、平和集会、地域行事等、地域の自然、文化、産業や人材を活用した学習を行う。
- ・愛汗デーの活動を通して、校訓『愛汗大志』の心を育成する。

柱2 「授業改善」に重点をおいた「確かな学力」の向上の推進

- 「わかる授業」「参加する授業」を目指した授業改善の推進
- ・目指す授業像（授業スタイル）の共有による授業を実践する。
- ・公開授業及び主事招聘授業、授業研究会を積極的に実施する。
- ・授業改善に係る校内研修を年間計画に位置づけ、共通理解を図る。
- ・公開授業への積極的な授業参観・評価（「付箋紙大作戦」）を実践する。
- 全校体制による「知学タイム」「学力向上強化月間」の実践
- ・朝の知学タイム（週4回、20分間、国数英）を計画的に実施する。
- ・学力向上強化月間における、「授業と連動した課題の提示」「補習」を計画的に実施する。

目指す授業像：他者と関わりながら、課題の解決に向かい「問い」が生まれる授業

学力向上推進の「3つの視点」(PPⅡ)

自己肯定感の高まり	学び・育ちの実感	組織的な関わり
<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の良い点や可能性、進歩の状況などを適切に把握してフィードバックする。 ○生徒が自分の特徴に気づき良い所を伸ばす。 ○日常の教育活動の中で適時個々の良さを伝えながら生徒の自己肯定感を高める。 ○主体的に学習に取り組む態度。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が教材研究と生徒理解を深め主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。 ○一人一人の学習状況を丁寧に見取る事が大切。 ○学び育ちの実感を積み重ねることで生徒が自らの目標や課題を持って学習に粘り強く取り組む姿勢。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの学び・育ちを実感し自己肯定感を高めていくためには学校全体で組織的かつ計画的に関わることが効果的。そのため校内研究や教科会、学年会等において何をどのように見取りどのように評価するのかその結果を支援にどうつなげていくのかを職員間で深め共有する必要。

授業改善6つの方策		
方策1 目指す授業像の共有	方策2 教材研究の充実	方策3 学力向上マネジメントの推進
<ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」の視点から目指す授業像、生徒の姿を共有し、授業改善の取組を展開する。 ・【授業スタイル】めあての提示（導入）→言語活動の充実（展開）→めあてと連動したふり返り（まとめ） ・「めあて」に正対した「まとめ・ふり返り」 ・考えをまとめたり表現（アウトプット）したりする時間の設定・確保 ・一単位時間で完結する授業 ・ICT機器を効果的に活用した授業 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種資料の分析・活用を通し、授業改善の充実を図る。 ・全国学力調査、県学力到達度調査、県学力定着状況調査、市標準学力調査の結果分析・活用した授業づくり ・「問い」が生まれる授業サポートガイドを活用した授業づくり ○組織的な取り組みにより、授業改善の充実を図る。 ・教科会を週時程に位置づけ、教材研究の充実を図る。 ・授業改善に係る校内研の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上の具体的な到達目標を共有し、学力向上マネジメントによる目標管理型評価システムを取り入れる。 ・学校評価、学年・学級経営、教科経営の到達目標の評価を行い、課題に対する対策を講じる。 ○全校体制での取り組みを推進する。 ・学力向上推進委員会の充実を図る ・管理職による授業観察とフィードバックを行う。

方策4 学習を支える力の育成		
学習環境の充実	規範意識・マナーの向上	家庭学習の習慣化
<ul style="list-style-type: none"> ○「学習のきまり」の徹底 ・1分前着席、黙想の実施 ・学習の準備、聞く態度の育成 ・整理整頓の日の設定（毎週金曜日） ・毎時間後の資料のファイリング 	<ul style="list-style-type: none"> ○「私たちのきまり」の徹底 ・あいさつ、きまりを守る、命を大切にす態度を身につけさせるための支援 ・道徳教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の充実 ・「愛汗大志」の効果的な活用 ・「家庭学習山登り表」「家庭学習カレンダー」等の活用。家庭学習賞の設定。ノートリレーの実施。
読書活動の充実	体験活動の充実	部活動の充実と適正化
<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書活動の充実 ・読書月間、旬間の充実 ・図書館の積極的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域教育資源の積極的な活用 ・1次産業体験、職場体験、地域行事への参加・発表等の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動休養日の設定（毎週水曜日） ・定期テスト1週間前の部活動停止 ・朝のあいさつ運動（各部輪番制）
生活リズムの確立	対話の充実	
<ul style="list-style-type: none"> ・朝の「てくてく登校」の奨励 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の奨励 ・食育に関する授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、生徒会活動の充実 ・教育相談の充実 ・授業での言語活動の充実 	

方策5 集団づくり・自主性を高める取組の充実	方策6 教育行政との連携
<ul style="list-style-type: none"> ○支持的風土をつくる学級経営 ・お互いのよさを認め合い、考えを交流させる授業展開 ○生徒指導の三つの機能を生かした授業の日常化 ・共感的な人間関係、自己決定の機会、自己存在感を得る場を生かした授業実践 ○学級活動や生徒会活動の充実 ・話し合い活動、所属感や自己有用感を育む行事の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校支援訪問による授業改善の推進 ・学力向上推進室、島尻教育事務所、市教育委員会の訪問による授業観察や学力向上の取組への指導助言等を授業改善に反映させる。 ・指導主事招聘による研究授業や校内研修を実施する。 ・学力向上推進本部会議からの提言を授業改善に反映させる。

評 価	
①全国学力状況調査において、国語・数学とも全国平均正答率の-3 p 以内	
②沖縄県学力到達度調査において、全教科で県平均正答率を上回る	
③正答率30%未満の児童生徒の割合及び無解答率の減少	
④児童生徒質問紙の学習意欲等に関する項目の数値の向上	
⑤学校質問紙の「授業における基本事項」等に関する事項の数値向上	

評価→【達成状況 90%以上→A 70%以上89%未満→B 70%未満→C】

【残った課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・正答率30%未満の生徒への基礎・基本の定着。 	【R4年度の対応策】 <ul style="list-style-type: none"> ・全校体制による継続した学力向上推進取組の実施。
---	---

2. 本校の一事徹底について

「家庭学習の充実」

各教科の基礎・基本の定着のため、家庭学習の習慣化を図り、生徒の学力向上を指導・支援する。

(1) ねらい

- ①家庭学習の習慣化を図る。
- ②基礎基本の定着を図る。
- ③学校と家庭が、連携して各生徒の育成について共通実践をすすめる。
- ④内容の充実を図ることにより、効果的に学力を身につけることが出来る。

(2) 取組内容

- ①本校独自の家庭学習ノート「愛汗大志」を使用する。
 - ・最初の1冊目は生徒全員に一斉に配布する。2冊目以降はノートを使い切った生徒は、校長先生に提出し、終了証とノートをもらう。
 - ・1冊終了毎（終了証をもらった生徒）に、校長先生は「家庭学習山登り表」へシールを貼る。
- ②家庭学習は1日1時間以上、1ページ以上行うことを目標とする。
- ③家庭学習ノートの年間目標冊数は、1人あたり5冊以上とする。
- ④家庭学習賞を設定し、家庭学習の内容の良い生徒を選び、表彰を行う。
 - ・家庭学習賞（1・2学期に各学級から3名）
 - ・1ヵ年家庭学習賞（年間を通して、各学級から3名以内）
 - ・目標冊数達成賞（年間で5冊以上を達成。但し、終了証をもらった生徒に限る）

(3) 家庭学習の活性化について

- ①家庭学習ノートのページには、必ず「日付」、「めあて」、「感想」「保護者サイン」を記入させる。
- ②家庭学習ノートを使い切ったら、必ず自己評価と保護者及び担任のコメントを記入する。
- ③取り組みの良い家庭学習ノートは、1Fオープンスペースに展示する。
- ④「家庭学習山登り表」「家庭学習提出一覧表」「家庭学習カレンダー」を活用する。
- ⑤1週間で5教科をまんべんなくやるようにする。
- ⑥家庭学習ノートリレーを継続し、活用する。(例)
 - ・2学期に学級内でノートリレーを2冊回し、量と質の向上を図る。
 - ・各担任で確認し、内容の良いページを学級で紹介する。

3. 今年度の取組目標

【取組1】地域教育資源の活用

- 各教科、第一次産業体験学習、職場体験学習、平和集会等で、地域の自然、文化、産業や人材を活用した学習を行う。

【取組2】学習環境の充実

- 黙想、チャイム前入室・着席、学習用具の準備等、「本校学習のきまり」の徹底及び家庭学習の習慣化を図る。
- 「整理整頓の日」「教科資料ファイリング」の指導徹底を図る。

【取組3】知学タイムの実施（基礎基本の徹底）

- 知学タイム確認テスト正答率を、国語7割、数学6割、英語1年7割、2年6割、3年6割とし、全生徒の80%以上が、その達成値を突破する。
- 学力向上Webシステムを活用し、Webシステムの活用問題を知学タイムに取り入れていく。

【取組4】確かな学力の充実

- 全国学力・学習状況調査、県学力到達度調査において、全教科で県平均正答率を上回り、無回答を減少させる。
- 学力向上月間の取組を全校体制で実施する。

【取組5】校内研修の充実

- 各教科研究テーマを設定し、一人一公開授業及び授業参観、授業研究会を行う。

【取組6】「知・徳・体」の3つの教育目標の連鎖

- 全学年で生徒が3つの学校目標から学年・学級目標と連鎖させ学期毎に目標設定・自己評価する。

4. 学力向上推進の取組（キーワード：全校体制・継続と徹底）

(1) 学力向上強化月間（5月・9月・1月～3月）の取組

家庭学習を「1日1ページ以上＋授業と連動した各教科の課題」を行う。

①授業と連動した課題（宿題）

- ・月（ ）、火（ ）、水（ ）、木（ ）、金（ ）と曜日を固定し、課題を与える。
- ・教科担任が提出された課題の点検・評価を行う。
毎朝、各クラス教科係が課題を集め、2校時休憩時間までに教科担任へ提出する。
- ・取り組み内容が不十分な生徒は、放課後に補習を行う。
場所は視聴覚室とする。
指導担当は、月（ ）、火（ ）、水（ ）、木（ ）、金（ ）とする。

②「家庭学習カレンダー」を活用する。

- ・家庭学習カレンダーの集計を提示し、各自の反省を基に月の目標（時間数）を立てさせる。

③「家庭学習帳山登り表」「学力向上月間ポスター」を掲示する。

(2) 県学力到達度調査及び全国学力調査に向けた取組

①ねらい

- ・2学年5教科＋1学年数学の既習内容の確実な定着に向けて、各教科で定着状況の分析及び対応策を検討し、全校体制で計画的に実施する。

②具体的な取組

- ・各教科で県Web実力調査の結果分析を行い、生徒にフィードバックする。
- ・上記の教科は、冬休みの宿題を提示し、生徒にフィードバックする。
但し、冬休みの宿題は、各教科無理なく3カ月スパンで考え提示する。
- ・各教科の結果分析及び取組を教科会で検討し、「分析・計画案及び冬休みの課題」を教科会資料にファイリングし、職員会議で共通確認する。
- ・各教科の取組は、家庭学習、放課後補習、知学タイム等を効果的に活用する。
- ・各教科の課題提示及び放課後補習を実施する場合は、学力向上強化月間取組を原則とする。
- ・県学力到達度調査実施後は結果分析・対応策を検討し、次年度の全国学力状況調査に向けて継続して計画的に取り組む。

5. 知学タイムの実施

(1) ねらい

- ①短時間の集中的な取組及びくり返し学習により全ての生徒に基礎的基本的事項の定着を図る。
- ②全職員で指導にあたり、個に応じた指導の充実を図る。

(2) 実施方法

- ①年間実施計画を作成し、週4回、朝の20分間（8:25～8:45）に実施する。
- ②国語・数学・英語を年間を通して実施する。必要があれば理科・社会も実施する。
- ③月末に「知学タイム確認テスト」を設け、学習内容の定着を図る。
- ④学年によっては、少人数指導で行う。
- ⑤読書月間・旬間では、最初の1週間は知学タイムの時間を読書に充てる。

(3) 役割分担

- ①国数英の担当教師は、独自教材を準備し授業を行う。
- ②国数英の担当教師以外はTTとして指導にあたる。

(4) 各教科の取組例

①数学（全学年共通）

- ・計算練習ノート（副教材）などを活用して基本的な計算練習の問題に取り組む。
- ・Webシステム問題を活用する。

②英語（全学年共通）

- ・既習単語や既習文法事項の復習を行い、定着を図る。
- ・通常の授業とリンクさせ、導入やまとめとしても取り組む。

③国語（全学年共通）

- ・普段の授業で充分確保できないドリル的な学習を授業と、知学タイムをリンクさせて取り組む。
- ・音読（3分）視写（3分）を取り入れ集中力を養うよう工夫する。
- ・漢字ノート（副教材）を活用し、新出漢字の反復練習に取り組む。
- ・1ヶ月というスパンの中で「全体学習（フラッシュカードなどを利用）→個人学習（書き取り練習）→豆テスト→復習→確認テスト」というサイクルで、語彙力の向上を図る。
文法事項においても、漢字の学習で行ったサイクルを活用する。

④社会・理科（2学年・2月）※必要があれば

- ・沖縄県学力到達度調査の過去問題を中心に取り組む。
- ・記述式や思考力を問う正答率が低い問題（県平均）を重点的に行う。

⑤各教科共通

- ・全国学力・学習状況調査、県到達度調査、学びの確かめ、市標準学力調査等の問題や類似問題も活用する。